

札幌市立手稲中央小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.teinechuo-e.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態・地域性等

本校は、手稲山の裾野に位置し、豊かな自然に恵まれ、多種多様な動植物が生息している。冬季は、山の麓ということもあり雪も多く寒さも厳しい。そんな中、ウィンタースポーツや地域のイベント等、雪と親しむ環境の中で生活をしている。

2. 実践単元名

6年 総合的な学習の時間 「ていねウィンターデコレーション」 (20時間扱い)

3. 目標

- 小学校6年間のまとめ(4年間の総合的な学習のまとめ)とする。
- 地域の行事に参加することで、より自分が住んでいる手稲に関心をもつ。
- 職業体験でお世話になった地域への恩返しとする。
- ちあふる手稲(保育園)や手稲中央幼稚園との交流を通して、上級生として進んで行動する態度を養う。
 - ・スノーキャンドルを通して地域の人々と触れ合うことで自分の住む地域に愛着をもつ。
(自分を見つめる力)
 - ・スノーキャンドルの作り方を小さい子に伝えることで人のかかわり方を学ぶ。(関わる力)

4. 取組の様子

① ペットボトルカバー、ポスターの製作活動

完成したスノーキャンドルに被せるペットボトルカバーを「ちあふる手稲」の子ども達と一緒に製作した。6年生は、幼児にとっても親切に優しく教え、一緒にペットボトルカバーを作っていた。幼児も、楽しそうに活動をしていた。



② スノーキャンドル作り

前回、一緒にペットボトルカバー作りをした幼児と、今度はスノーキャンドル作りに挑戦。この頃には、互いにすっかり慣れ、より楽しそうに活動をしていた。

【スノーキャンドルの作り方】

1. バケツに雪を詰め込む。
2. 逆さまにして、穴を掘る。
3. 雪の場合は、たらいで「水」を混ぜると固まりやすい。



③ 点灯式

2月8日（水）16:30より点灯式を予定していたが、8日から3日間、集団風邪による臨時休業のため、児童の参加は控えるようにした。点灯式前日の下校前、児童は一生懸命に作ったスノーキャンドルに点灯して、その様子を見てから各自下校をした。



5. 研究のまとめ



- 「ていねウィンターデコレーション」の期間中、幼稚園や保育園、学校や商店街など、いろんな場所でキャンドルの灯がともされ、きれいに照らされた街を見て、自分が住んでいる手稲の街に関心を持ち、地域の一員としての認識をもつことができた。
- 職業体験の際に「手稲中央幼稚園」や「ちあふるていね」で出会った子ども達との再会を通して、思いやりをもって優しく接することの大切さを学んだ。
- 「ていねウィンターデコレーション」の活動を通して、幼児や地域の方々と触れ合い、総合的な学習の時間のねらいである「自分を見つめる力」「関わる力」の育ちを再確認することができた。
- ウィンターデコレーション終了後、2年生も雪灯りキャンドルの取組を行った。みんなで協力する姿、保護者と触れ合う微笑ましい姿が見られた。
- 本実践とは別に、「雪育キャラバン先生」として、プロスキーヤー等に雪やスキーの魅力を語ってもらう取組も行ったが、プロスキーヤーと出会い、世界の山々を滑り降りる映像などを見ることで、スキー学習への興味・関心を高めるとともに、改めて雪や冬の魅力について捉えることができた。

